



一宮ライオンズクラブ

国際会長テーマ 「We Serve (われわれは奉仕する)」

一宮LCスローガン 「深めよう絆 繋げよう奉仕の和 ウィ・サーブ」

第 1556 回例会

2021~2022

No.19



結成 65 周年記念大会

第 18 回理事会報告

と き 2022 年 3 月 23 日(水) 11 : 00

ところ 尾張一宮駅前 i ビル 7 階シビックホール

出席者

L 中川 L 小川 L 西尾 L 吉江 L 御子柴
L 伊藤 L 高橋 L 坪内 L 大山 L 青山
L 田中(秀) L 佐藤(彰) L 久保 L 矢田 L 岩田
L 則竹(保) L 岡村 L 山中

議題

1, 65 周年準備委員会 (3/9) 報告

マーケティング委員長 L 則竹保利

4/7 ライオンズクラブ結成 65 周年記念大会の予算について承認をいただきました。

2, 豊田ルネッサンス LC CN30 周年記念チャリティーゴルフ大会 (3/14) 報告

親睦委員長 L 御子柴孝明

笹戸カントリークラブにて参加者 83 名にて開催されました。当クラブからは 2 組参加、天候に恵まれて楽しいプレーが出来ましたと報告がありました。

3, 消防ポンプ車・救急車寄贈 (3/16) 報告

会長 L 中川幸男

尾西消防署にて、消防ポンプ車 1 台と救急車 1 台、合計 2 台の贈呈式が行われその後一宮市役所にて中野市長から車両目録の贈呈が行われたと報告がありました。

4, プロウオーキング(ゴミ拾いウォーキング) (3/20) 報告

アラート・環境保全社会福祉委員長 L 矢田賀也

3 連休の中日に朝早くから大勢メンバーに参加いただき無事終了しましたとの報告がありました。

5, 指名委員会 (3/23) 報告

指名委員長 L 小川康則

次期第 2 副会長として L 野寄 章の承認をいただきました。

6, 親睦委員会 (3/23) 報告]

親睦委員長 L 御子柴孝明

最終親睦旅行の行先として京都、日程は 5 月 19 日、20 日で進めると報告がありました。

7, 会員増強・会則・FWT 委員会 (3/23) 報告

会員増強・会則・FWT 委員長 L 佐藤 彰

L 国本実 (1 名)・L 則竹正勝 (2 名) の家族会員の入会の承認をいただきました。

8, その他

L 御子柴孝明より 4 月 21 日 6 LC 親睦ゴルフ大会を予定通り開催するとの報告がありました。

L 大山恭範よりウクライナ侵攻による避難民・難民への LCIF 支援をお願いしたいとの依頼がありました。当クラブとしては 50 万円をクラブ支援金として寄付すると可決承認されました。

L 青山吉光より一宮市民水 Rocket 大会 (5/5) の案内があり、宇宙・ともいき・照光愛育園さんに申込書を届けることになりました。

次の理事会 (第20回)

と き 2022 年 4 月 22 日(金) 11 : 00

ところ 一宮商工会議所ビル 402

次の例会 (第 1557 回)

第 68 回地区年次大会

と き 2022 年 4 月 23 日(土) 14 : 00

ところ 名古屋マリオットアソシアホテル
(代議員のみ参加)

第 1555 回例会報告

と き 2022 年 3 月 23 日(水)12:15

ところ 尾張一宮駅前 i ビル 7 階シビックホール



本年も、コロナウイルスの影響により開催が心配されておりました花見例会ですが、様々な工夫により、無事開催される事となりました。会場には花見例会らしく奇麗な桜が飾ってあり、とても春らしい演出になっておりました。

会長のゴングから例会スタートとなり、会長挨拶時に第二副会長の決定とロシアのウクライナ侵攻による避難民・難民への LCIF 支援として、一宮ライオンズクラブより 50 万円を支援すると報告がありました。

その後、株式会社 洋華堂 次長 鶴飼靖久様よりスピーチが始まりました。冠婚葬祭のお花を中心に事業展開されておりますが、花見例会らしく桜にちなんだ話を中心に日本 3 代桜(福島 三春滝桜・山梨 山高神代桜・岐阜 根尾谷淡墨桜)等のお話をさせていただき、無事例会が終了致しました。

例会を計画していただいた久保計画委員長をはじめ、理事の皆さま有難う御座いました。

青少年教育副委員長 水野 泰嘉



▲花見例会会場内

第 22 回一宮ティーボール大会

と き 2022 年 3 月 26 日 (土) 11:00

ところ 大野極楽寺グランド

小雨が降る中で春季ティーボール大会の決勝戦が大野グランドにて開催されました。

決勝に残ったのは今伊勢西チームと浅井チームでした。

さすがに決勝まで進んできたチーム、好プレーの連続で小雨が降る中、白熱したプレーに観客の大人達にも感動を与えてくれました。

結果は今伊勢西チームの優勝となりましたが、どちらが勝ってもおかしくない素晴らしい試合でした。



青少年育成委員長 岩田 昌志



第 1555 回例会ドネーション・ファイン

計 120,000 円

◎ドネーション

120,000 円

L 村上真澄	孫が生まれた喜び・新しい会社設立 中日新聞尾張版掲載された喜び	23,000
L 野 寄 章	長女大学・次男高校生入学喜び	15,000
L 中川幸男	花見例会が出来た喜び	10,000
L 田中秀雄	孫が小学生・中学生・高校生に育ちます	10,000
L 戸崎一豊	子どもの卒業と就職が出来た喜び	10,000
L 大島八重子	池田温泉たち川のおもてなしに	5,000
L 原田豊子	"	5,000
L 御子柴孝明	花見例会が出来た喜び	5,000
L 久保辰也	"	5,000
L 小川康則	L 野寄次期第 2 副会長決まりました	5,000
L 矢田賀也	プロウオーキング参加お礼	5,000
L 杉山幸紀夫	中日新聞尾張版掲載された喜び	3,000
L 立川智浩	L 大島八・L 原田池田温泉来場お礼	3,000
L 吉江有希子	プロウオーキングの際 ICC のインタビューにこたえさせていただきました	3,000
L 坪内章浩	ドネーションが多かった為	3,000
原田伸一様	スピーカーのお礼	10,000

◎ファイン

0 円

ドネーション・ファイン累計

1,450,000 円

プロウォーキング報告

と き 2022年3月20日(日) 10:00~11:00

ところ 一宮市奥町公園周辺



午前10時より334-A地区キャビネット事業であるプロウォーキングが一宮市奥町公園の地にて一宮ライオンズクラブ並びに一宮東ライオンズクラブの合同で開催されました。多くの会員の皆様にご参加をいただきまして誠に有難うございました。

プロウォーキングとは Plocka UPP (ゴミ拾い) と Walking (歩く) を重ねた造語です。ゴミ拾いをしながら健康のために歩いていただくことを目的とした事業です。

当日は、天気にも恵まれ、絶好のゴミ拾い&歩く日和でありました。会員の皆様のご協力で一時間余りで沢山のゴミを拾い集めることができ、奥町公園周辺はとっても綺麗になりました。ゴミを拾うことと歩くことで、心身ともに綺麗に健康になったことと思います。

この活動は、今後も続けていく旨の挨拶が大山ガバナーよりありましたので、来年も楽しみにしています。

アラート・環境保全社会福祉委員長 矢田賀也



プロウォーキング
はなしん

ここにとどく
花キュービット
一宮市今伊勢町本神戸中道13の2
TEL 0586-72-8624
FAX 0586-72-8861
L 平 光 昌 彦

第1555回例会アテンダンス報告

会員数 243名

正会員 103名 賛助会員 5名

家族会員 135名

例会出席対象会員数 108名

出席者 44名(メーク・アップ3名)

出席率 44%

今回の例会は出欠関係ありません。

(株)村橋電機

一宮市今伊勢町馬寄字志水35-3

☎ 73-2816 FAX 73-2325

L 村 橋 道 夫

(株)ツーリストトップワールド

名古屋市中川区長良町3-20

TEL (052) 362-5011

L 安 吉 亮

管工事業

(株)サン・エネルギー・サービス

一宮市今伊勢町本神戸中道22

TEL (0586) 24-4677

L 矢 田 賀 也

昭和ロイヤルリゾート(株)

一宮市神山2丁目2-23

☎ (0586) 46-7200

L 山 中 一 史

ビッグベン(株)

一宮市今伊勢町馬寄字桃木原12

TEL 73-3741 Fax 82-3525

L 村 橋 福 一 郎

ライオンズニュース



《復興と平和を願って走る三陸鉄道のラッピング電車》

332-B 地区(岩手県)

三陸沿岸に甚大な被害をもたらした東日本大震災から 11 年。発生直後からライオンズクラブを始め国内・国外から多くの支援があり、ハードウェア面の復興は着実に進んでいる。しかしながら、大きな被害を受けた沿岸の人々には癒えることのない心の傷が残っていることも事実だ。一方で、10 余年という長い歳月を経て、同じ県内に暮らす私たちでさえ記憶が薄らいでいくことは否めない。

332-B 地区(岩手県／村上孝地区ガバナー)は継続的に沿岸部の皆さんに寄り添い、三陸復興を支援する奉仕事業を実施してきた。今期、村上地区ガバナーは地区内全クラブに対して復興支援事業を提案するよう求めた。1 リジョン 1 ゾーン(盛岡地区)の 7 クラブは、国際協会が毎年行っている国際平和ポスター・コンテストの地区入賞作品を三陸鉄道の列車にラッピングして運行する事業を提案した。三陸鉄道は津波により路線各所で駅舎や線路が流出するなど甚大な被害を受けたが、震災発生から 5 日後には一部区間で運行を再開して被災者を勇気づけ、14 年 4 月に全線復旧し運転を再開した。三陸鉄道は復興の象徴であること、国際平和ポスター・コンテストの応募作品は地域の子どもの思いが込められていることなどから企画したものだ。検討の結果、地区内から集まった案の中からこの提案が選ばれ、LCIF 地区及びクラブシェアリング交付金を活用して実施されることになった。復興の象徴である三陸鉄道で、沿岸の住民の皆さん、未来を担う子どもたち、県内のライオンズ・メンバー、その他多くの人々の気持ちがつながるという意味を込めて、ラッピング列車のテーマは 2021-22 年度国際平和ポスター・コンテストと同じ「私たちは みんな つながっている」に決定した。村上地区ガバナーをトップにした実行委員会が準備を進めたが、コロナの影響で延べ 5 回の打ち合わせ会議は全て Zoom で行われることになった。ウェブ会議に不慣れな方も多くいる中でこれもチャレンジの一つだった。



そして迎えた 3 月 13 日、三陸鉄道の宮古駅でラッピング列車の出発式が開催された。当日は小雨が降る肌寒い天気、感染症予防の観点からスタッフも少数になったが、地元クラブのメンバーを始め全員で懸命に準備した。出発式では多くのメディアが集まる中でテープカットを行い、招待した入賞作品の子どもたち・保護者 18 人が列車に乗り込んだ。そして、山田町立船越小学校 6 年の佐藤心咲さんによる「出発進行」の号令で、色鮮やかな 71 点のポスターに彩られたラッピング列車は一路、田野畑駅へ向けて出発した。感染症対策のため定員の半分での運行になったが、車中ではガイドによる説明を聞きながら 2 時間の旅を楽しんでもらった。

この列車はこれから 1 年間、三陸沿岸を復興と平和の願いを乗せて不定期で運行する。この列車を目にして少しでも多くの方が勇気づけられ、また平和への願いを新たにしていただけることを切に祈っている。コロナ禍が落ち着いた折には、全国から多くの会員の皆さんが三陸を訪問し、沿岸の雄大な景色と復興していく街の姿をご覧いただければ幸いだ。

